



マイケル・シャクルトン（通訳）、岩村義雄（総主事）

シリアからの150万人近くの難民は、一家の夫、家屋、土地を失い、やっとレバノンに來たものの、はや逃げる場所、病院、食べ物ありません。孤児たちは寒くなる荒れ野で、水、食糧、薬もなく逃げまどうのです。「カヨ子基金」は、彼らにクリスマスに温かいスープなど、現地にプレゼントします。

8月28日、ロシア西部のクルスク州のクルスク原発へウクライナ軍が侵攻、一方、8月11日、ロシア軍によるザポリージャ原発内の爆発をゼレンスキー大統領は発信。双方とも真相はベールに包まれたままです。

戦時下、唯一の被爆国である日本は他山の石と度外視できません。そんな世界全体が暗澹たる重い空気のため息をついている時、10月11日、ノルウェー国オスロのノーベル平和賞

レバノンの子ども40万人避難、100万人死亡（2024年10月17日 CNN）



第二次世界大戦、冷たい戦争、ベトナム戦争が終わってからも戦争に終止符が打たれない。絶え間ない殺りくが繰り返されてきました。現在、死臭がただよっているロシア・ウクライナ間の戦場、ガザ、レバノンの紛争が世界大戦の導火線になることを杞憂なさる方も増えています。

10月1日、レバノンの友人ハムザ宅がイスラエル軍の攻撃で破壊されました。



レバノン国 ハムザ氏宅 2024年10月1日

1 「日本原水爆被害者団体協議会」の略、「第五福竜丸」がビキニ環礁1954年に被ばくしたりしたことを契機に、1956年長崎で被爆者たちが結成。核兵器の廃絶や、被爆者の救済のための地道な活動。

2 「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」（略称 推す会。常任委員 水垣渉、村田充八、勝村弘也、新免貢、樋口進、家正治、宮本要太郎、岡野彰子、遠藤雅己、芦名定道、浪本勝年、岩村義雄。



孤児にクリスマスを！

委員会は、日本の被団協にノーベル平和賞を授与を前ぶれなしに発表。同時に、神戸で「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」は、受賞発表を聞き、喜びました。

「戦争、許すまじ」。

庄司会計事務所

税理士 庄司慈明
税理士 齋藤 茂

石巻市蛇田字中埜 21
0225-93-8743



ヤマザキ

世界のパン
ヤマザキ



Otsuka

株式会社 大塚製薬工場

〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151(代表)

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA

竹中工務店

〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



『広報 さがら』(2024年8月号 表紙)

自分の食べるコメは自分でつくる

田・山・湾の復活

大島健二郎

になります。

園児たちは、自分の食べるコメは自分でつくりまます。コンバインなど高価な機械を一切用いません。昔ながらの無農薬、有機、

園児たちもトロトロ層、田植えをしてきた安全な稲に大喜びです。九州の相良(熊本県)で4回目の稲刈りです。

本当は日本は輸出できるくらい米はあります。しかし、アメリカの農家から30万トン以上、米を輸入しています。自分たちの首をしめています。店頭から米がなくなる騒動になっても、田んぼで米をつくる農家は減っています。

安全を考えると、アメリカ製の米も残留農薬安全性検査が気になる米も残留農薬安全性検査が気

除草剤なしだから安全なコメづくりです。保田ぼかし(乳酸菌のような働き)があればこそ、限界集落にあって、台風に強い稲です。

いろいろな生き物に稲刈りの時、出会います。スイッチョン、トノサマバッタ、「アカカネ」(赤とんぼ)が稲刈りの朝になると、園児たちを迎えました。100匹近くはいたでしょうか。

サクサクッとノコカマで稲を刈ります。「竿がけ」(九州の稲架掛の呼び方)に掛けていきます。山下幸俊さん(76歳)が長い竹を用意してくださっていました。水管理など地元の協力がなければ「ヒノヒカリ」のもち米は育ちません。

米を輸入する国から、自分たちの食べるコメは自分たちでつくる国に脱皮しましょう。



『人吉新聞』(2020年10月2日付)

『真平家物語』五家荘の先祖(第十三回)

熊本県緒方医院院長 緒方 俊一郎

パングラデッシュへの活動に尽くしている神戸国際支縁機構の白方誠彌理事「1930」の九州大学医学部の後輩にあたる緒方俊一郎医師「1941」その後輩に中村哲「1946-2011」医師は「100の診療所より1本の用水路を」とアフラガニスタンで仕えられました。3人は病魔に冒された人々に対してだけでなく、社会の不正、人権が軽んじられている間、貧者のために憲法9条のたいせつさを発信なさっています。

本誌寄稿者緒方俊一郎氏は、「阪神宗教者の会」(2024年8月23日)で話された内容は下記に。
<https://www.christiantoday.co.jp/articles/34019/20240912/minamata-disease-didnt-end-yet-shunchino-ogata.htm>

五家荘という呼び名について

盛任の子供は4人いたと記録にある。そのうちの娘一人が甲斐宗立の妻となり、甲斐氏との縁深くなった。これにより第十二回に紹介した嫡男盛光(弥三左衛門)の弟・盛臣(千代丸)は甲斐氏の軍に参加して転戦していたが残念なことに、豊後の国であえなく討死にしまった。このことはすでに述べたところである。

盛光の後継は第十三代盛輔(右近)であり、その子は盛能(右近太夫)と云ったが、明応元年十月、仁田尾、葉木、梶木、久連子、椎原の五つの集落を連和して(一連の纏まり)五家荘と呼ぶようになった。つまり、このころになって五家荘という呼び名を使うようになったのであった。以来、五家荘という呼び名は盛能の頃から呼び習わされるようになったようである。

この盛能の弟・盛貞は左馬之助といったが、阿蘇氏に仕えた。第十四代盛能を息子の惟澄が跡を継ぎ左衛門と称したが、盛貞の縁があったことからであろう。阿蘇氏に仕え、低用地方数か所の領有を認められた。低用という土地は五家荘の北に接する九州山地の一角に属する地帯であるが五家荘よりは豊かな土地である。以前にも書いたように五家荘という土地は隠れ住むには都合の良い秘境であるが、生活するには特に食料や塩を得るためには困難が多かった。塩を得るために薩摩との取引をしようとしたこともあったほどである。コメは全く取れず、ヒエ、アワ、ソバなどを焼き畑農業によって得ていたし動物たんばくとしてはヤマメやウサギ、タヌキなどの小型の獣、ヤマドリ等の鳥、イノシシ、シカなどを弓矢や罠で獲り、時にはツキノワグマと格闘したものもいた。しかし獲物がいつもとれるわけではなく、厳しい自給自足の生活を強いられ、特に近代になると五家荘から低用方面などへ出てそこからさらに八代や熊本方面に出ていくものも少なくはなかった。

例えば、日本の衛生学、細菌学の基礎を作り、北里柴三郎とも交流のあった緒方正則は、五家荘に隣接する(あるいはその一部といってもよい)八代郡河俣村の出身である。この人物については今後紹介することとした。

第十五代惟澄はその後椎原地頭となり、伊豫守称号を得、永正五年五月に死去したと記録されている。

31年ぶり、ゼロから翻訳した新しい聖書

『聖書 聖書協会共同訳』
—2018年12月発行—

全国書店にて
好評発売中です
www.bible.or.jp
日本聖書協会



Spirit & Technology 湯川胃腸病院

胃腸科・小児科・泌尿科・皮膚科・眼科・耳鼻科・歯科・整形外科・形成外科・産婦人科・放射線科・検査科・理学療法科・作業療法科・言語聴覚科・栄養科・社会福祉科・在宅医療科・緩和ケア科・救急科・ICU・NICU・周産期センター・がんセンター・透析センター・移植センター・ドナーセンター・臓器提供センター・臓器提供センター・臓器提供センター

〒543-0033 大阪府天王寺区堂ヶ芝2丁目10番2号
TEL:06-6771-4861 FAX:06-6771-4882

人によし、社会によし、未来によし。

ミヨシ油脂株式会社

〒124-8510 東京都葛飾区堀切4-66-1
<http://www.miyoshi-yushi.co.jp>

KINSAN 夢に近づく 夢を産み出す...

近畿産業信用組合

総合コールセンター
0120-111-019



『石巻日日新聞』(2024年9月18日付)



『牡鹿新聞』(2024年10月4日付)

『石巻かほく』(2014年9月18日付)
丹野叶愛(とあ5歳)さん

稲刈り&脱穀

飢餓に備える

村上裕隆

▼暴風雨にめげない「復幸米」

台風11号の突風により、見渡す一面、田んぼの稲が倒れていました。東日本大震災から園児たちと13回目の稲刈りができるか祈る気持ちで神戸から15時間かけて、宮城県石巻市渡波に運転しました。稲穂が寝ていると、稲刈り機では役に立ちません。しかし、園児たちと手で植えた「復幸米」はすくすくと背が高く伸びており、一本も倒れていません。イネとイネの間隔が広いこと、無農薬、有機、除草剤を用いなかったせいか茎も太いのです。

園児たちはノココマでさくさくつと刈りました。天日干しをする「稲架掛け」も、石巻地区森林組合、津田新一さん、保原政美さん、佐島かつ子さんたちが園児たちの体験を応援してくださっています。

黄金の稲穂は重くずっしりしていました。

「米(コメ)」の字は「八」+「十」+「八」でできあがっています。田植え、稲刈りだけでなく、

く、一年中、やるのが88通りあります。震災から15回目の訪問です。前日、大正時代の足踏み脱穀機の太い針金が折れて、動かなくなりしました。祝日ですし、古い道具ですからどなたも修理できません。しかし、お百姓さんはなんでもできます。亀山繁さん(74歳)は園児のために2時間もかからず修理してくださいました。地域のみなさんは園児が「復幸米」を作るのを応援してくださっています。保田茂先生に学んだ保田ほかで13年も続いています。

☑ わんぱく相撲大会

10月13日、渡波で「わんぱく相撲大会」がありました。いつも収穫を祈ってくださいる大國宮司の神社の土俵で行われました。岩村義雄会長は来賓で招かれました。

<https://youtube.com/tBDXwbDixz4>

「相撲道」は、あいさつができる子どもを育てます。初めと終には礼をします。土俵では卑怯なやり方で勝利することは許されていません。世界的に通用するフェアな精神です。勝ち負けにこだわるより、全力を出し切ることがたいせつです。プロの相撲部屋入門すると、掃除、洗濯、炊事の下働きから始まります。日本の物質的に豊かな生活に育った者にとり、耐えられかどうか、練習より忍耐力が求められます。ここ宮城県石巻市渡波は力士を生みだしています。富田陸人さん(加美農業高校2年生)や三浦祥英さん(石巻水産高校2年生)は、今回も後輩たちの相撲大会に来て、参加者一人ひとりののまわしを介してあげていました。

自閉症にもかかわらず小学校4年生から相撲を妹と始めた門馬遼真(もんまとうま)さん(小学校6年生)は優勝しました。小学校1年生から一度も休まず、相撲に励んだ山内涼弥(りょうや)さん(小学校6年生)は小人症(低身長症)です。双方手加減なしに真剣なのに、目頭が熱くなりました。

勝ち負けより、礼節を重んじる
わんぱくな小学生

TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴信

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

Humanity First

「ヒューマンティファスト」
日本アハムディア・ムスリム協会弁護士法人
芦屋西宮市民法律事務所

津久井 進

日弁連災害復興支援委員会委員長
兵庫県弁護士会前会長

TEL: 0798-68-3161

ミヨシ共栄株式会社

東京都墨田区緑 3 丁目8番12号

事務局便り

理事長 本田寿久

2003年、北野進[1959-]さんは、^{しゅうしゅう}珠洲原発反対運動を勝利に導かれました。どんな闘いをなさったかを9月30日、ZOOMオンラインで「阪神宗教者の会」(岩村義雄世話人代表)にて語られました。31歳で石川県議に。3期務め、その後、石川県平和運動センター事務局で平和運動に携わられました。2011年より珠洲市議を2期務め引退。現在も能登半島の志賀原発を廃炉に！と日夜活動を続けておられます。

9月29日には、^{しゅうしゅう}珠洲市寺家(珠洲原発反対運動の下出地区代表者の出村正廣区長)の呼びかけで20人が寺家避難所に4ヵ月ぶりに集まりました。

集まった目的は、津波発生(1月1日)から10分以内に、村人はどうしてたか、思い起こし、災害大国にどんな教訓を残せたか考える有益な集いになりました。

1月2日、災害のがれき未処理にボランティアを拒んだ林芳正[1961-]官房長官、^{はせひろし}馳浩[1961-]石川県知事、また知事を支持する報道の在り方に問題がありました。なぜならがれき撤去などはたくさんの人海戦術にたよるしかないからです。

1月1日～5月31日の期間、共に避難生活をなさった方々がやって来られました。深雪、地震、津波の苦勞をし仲間は

5ヶ月間、共同生活をしました。同窓会のように楽しい団練の時となりました。1月1日、避難し、無事であったのはどうしてか、東京から防災都市

計画研究所所長の吉川忠利教授や、環境防災研究科の池田浩敬教授(常葉大学)も寺家の調査をまとめておられました。

9月21日の水害を免れたのはどうしてか、話し合いました。寺家は高谷地区と並んで、^{しゅうしゅう}珠洲原発を食い止めた中心でした。結束力は、避難訓練も徹底していました。家屋、浄水槽、車などは津波で流されましたが、犠牲者がひとりも出なかった奇跡について住民の意識について、津波発生から10分以内の行動について一人一人が決死の思いを語り合いました。独居の^{しもや}下谷きよさん(83歳)が仮設住宅の床下浸水、まだ下水も復旧していない若狭幸子さん(85歳)、^{たんと}高岡昭子さん(75歳)も集いました。高台にある「避難所」まで「ようもん坂」を足腰の悪い泉りささん(45歳)をおんぶした出村正幸さん(47歳)の救出体験談、あの10分の住民のすばやい避難、震災時のビデオのリアルさが物語っていました。(報告 佐々木美和)



吉川忠利教授 寺家集会所 9月29日

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,400円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

・郵便振替
口座 00900-8-58077
加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱UFJ銀行
462(三宮支店) 普通 3169863
神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には書ける方は『国名』を書き添えてください。

(一社) 神戸国際支縁機構

ボランティアや移住者募集中

農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。

被災地への支縁物資もお願いします。

年会費をお願いします。(月に200円)

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

海外の孤児のために支縁金をお願いします。

「小さくされた人々のための福音」講座
毎月第3金曜日
午前10時～
神戸学生青年センター
本館1階

岩村義雄セミナー
毎月第4月曜日
午後6時半～
ミント神戸17階

編集後記

94歳になられる白方誠彌理事[1930-]は10月10日に語られました。「今の中東情勢は、かつて関ヶ原の戦いに突入していった戦国時代の様相と相似しています。いわゆる戦国時代の拡大版と言えます。イスラエルの戦闘が中東全体を巻き込むようになっています。戦禍で死んで灰になるのです。人間の内にいる罪が脳をコントロールする働きが、歯止めが効かなくなっています。暴発が起きてしまっています。今こそ、人間は神の前にあって謙遜に、オレのやり方に固執するのではなく、罪の自覚をもってへりくだらないと地球の滅亡は避けられません。」

理事 白方誠彌

救援金、維持会費のご協力を感謝します。(敬称略)

2024年4月21日～7月19日

佐々木美和、岩村義雄、星野尚子、石川久子、高橋宏和、大嶋善直、沖浦宏隆(千葉県布良)(3)、平澤久紀、報告会、前川和弥&幸子(2)、樋口喜寿江(福岡県松本)、秋田喜代子、鳥飼トモ子、ハラダマキコ、岩本久吉&眞子(福岡県松本)、宮本博美、野田健二(5)、藤野知香、嶋田博信&礼子(千葉県布良)、有田貞一&美栄子(3)、東原良学(2)、千葉幸一(宮城県石巻市)(2)、佐々木駿介、山本陽子(2)、白瀬悦子(2)、穴戸義光(宮城県石巻市)、福岡真悟&ウィルシー(香港)、兵頭晴喜、木村ふみ子(石巻市)、土手ゆき子、土手朋、岡部 徹、大島健二郎(3)、阿部和夫&斉子(宮城県石巻市)(3)、早瀬裕子、石井泰代、宮坂信章、鄭 恵姫、エフエムわいわい、吉俣正光、本田商会(4)、ミヨシ油脂株式会社、金 栄、中山圭子、西上千栄子、大野祐弥、の野慶子、福地弥寿子、愛沢伸雄(千葉県館山市)、松本真祐、泉 晴代、中村清雅、青木(2)、新井克英(千葉県館山市)、長通沙耶、若宮紀章(福島県双葉郡)、宝塚栄光教会(3)、岩間洋&千恵子(3)、(株)山崎製パン、保田 茂、糸島デモクラシー塾、西田祥子、横山恵子、村田義人、水野節子、神戸ユニオン教会、ブイ・ティ・オアン(神戸ベトナム人会会長)、今村佳代子(佐賀県大町町)、レ・ティ・トゥ・フォン、村上安世、許 敬(神戸朝鮮高級学校校長)、民部綾子、服部良一、神部隆三、藤丸秀浄(法専寺住職)、明石バプテストキリスト教会、森川八郎、坂井良行(高野山真言宗西方院住職)、千田豊徳(宮城県石巻市光厳寺住職)、福田雄二(熊本県相良)、竹内真二(金光教鶴橋教会長)、東灘バプテスト教会、勝本小夜子。451,895円

フードバンク関西、栗原永子からそうめん、前川和弥&幸子から菓子、岩本久吉&眞子(福岡県松本)から観葉植物など、梶原ミドリ(福岡県松本)からコーヒー(2)、漬物など、山内満千子(熊本県相良)から飲物、出井洋子(福岡県松本)から梅干しなど(2)、梶原ミズミ(福岡県松本)からしいたけ、中村優子(佐賀県武雄市)からコーヒー、上村由紀穂&恵子(熊本県人吉)からノンアルコールビール、緒方礼子(熊本県相良)から飲物、藤野知香からマスクなど、池田裕憲(千葉県館山市圓光寺)から茶菓、齊藤さよ子(宮城県女川町)からしそジュース、木村ふみ子(石巻市)からトマトなど、本田 巧(石巻市祝浜)から海苔(2)、丹野典彦(宮城県渡波)からサケ、丹野将太(石巻市塩釜町)からメダカ、丹野恵子(宮城県石巻市)から海苔(3)、佐藤金一郎&晴美(宮城県渡波)からオロナミン(2)、庄司慈明(宮城県石巻)から茶、阿部和子(宮城県渡波)からミカンゼリー、坂井良行(高野山真言宗西方院住職)からカレー、山田初子(熊本県相良村)からゴウヤなど、堀 真由美(福岡県松本)からそば菓子、鳥越肖男(熊本県人吉市)から朝日温泉入浴券、ティック・ドゥック・チ(和楽寺住職)から茶、(株)小阪商店の大阪修一からプロパンガス、石巻森林組合から農具、安藤仁博(仙台市)から茶菓(2)、本田寿久から書籍(2)、前川和弥&幸子から果物など、ブイ・ティ・オアン(神戸ベトナム人会会長)から月餅、(株)チュチュアンナから靴下、フードバンク関西からラーメン、菊地恵子(宮城県渡波)から和風小物、張永貴から食糧、全福礼から食糧、沢田良子の送迎。